

那珂川アユ漁獲量調査(2)(平成26年度)

釣獲魚体重および釣獲魚に占める放流魚の割合

誌名	栃木県水産試験場研究報告
ISSN	13408585
著者名	石川,孝典 網川,孝俊
発行元	栃木県水産試験場
巻/号	59号
巻号補足	
掲載ページ	p. 28-29
発行年月	2016年2月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター

Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



那珂川アユ漁獲量調査 2（平成 26 年度）

一 釣獲魚体重および釣獲魚に占める放流魚の割合一

石川孝典・綱川孝俊

目 的

前掲の試験課題と併せ、今年度も引き続き、那珂川における釣獲アユの魚体重および由来について調査した。

材料および方法

釣獲魚の体重および由来判別 那珂川漁業協同組合連合会の各漁協の組合員各 1 名の計 4 名に対し、漁期中に釣行場所と釣獲したすべてのアユの体重、下顎側線孔による放流・天然魚の判別結果について記録を依頼した。釣獲魚は、前掲課題と同じく那珂川を区分（P. 26, 図 1）し、地区ごとに月毎および旬毎の平均体重と放流魚の占める割合を求めた。

結果および考察

釣獲魚の体重 釣獲魚の年間の平均体重は 51.0 g で、平年（56.8 g）の約 0.9 倍となり、過去最大だった前年（91 g）の約 0.5 倍程度となった（図 1）。6 月上旬は平年と同等であったが、6 月下旬から 8 月にかけては平年よりもやや小さい傾向が見られた（図 2）。これまでの調査から、釣獲魚の体重は遡上群数との間に負の相関関係が認められている。¹⁾ 今年度は天然魚の遡上群数が多かったことから、釣獲魚も小型化する傾向にあったものと推察される。

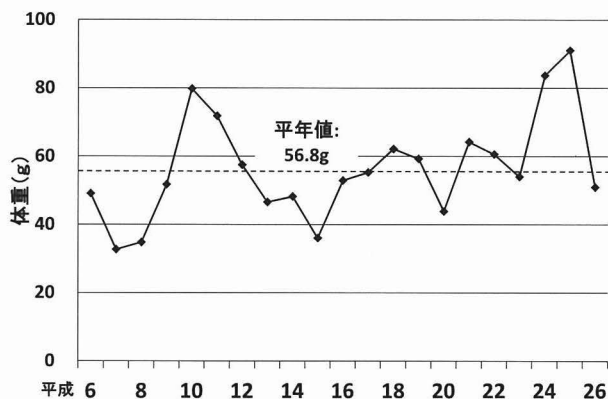


図 1 釣獲魚の体重の経年推移

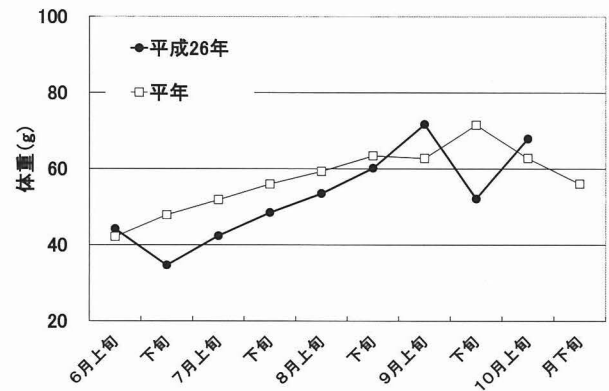


図 2 月旬別の釣獲魚の体重の推移

釣獲魚に占める放流魚の割合 漁期全体を通してみると、放流魚の割合は 24.2%と平年（35.2%）と比較して低かった。時期別に見ると、6 月に 27%と平年（50%）の半分であったが、7 月以降は平年値との差は縮まり、10 月には平年値よりも高い値（36%）であった（図 3）。

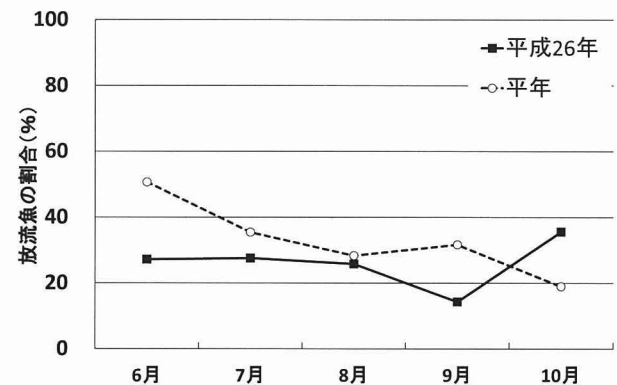


図 3 月別の釣獲魚に占める放流魚の割合

地区別に見ると、本流の黒羽地区は 6 月に約 30%、その後は約 20%まで減少し 9 月まで同水準で推移した（図 4）。八溝地区では 6 月に約 20%、7 月以降は徐々に減少し、9 月には全く確認されなかった。茂木地区では 6 月に約 20%、その後は約 30～40%の間で 10 月まで推移した。支流の武茂川では 6 月に約 60%、その後は 7 月に約 40%、9 月に約 10%と徐々に減少した。荒川では 6 月から 9 月まで 20%前後で推移し、10 月に 40%近くまで上昇した。

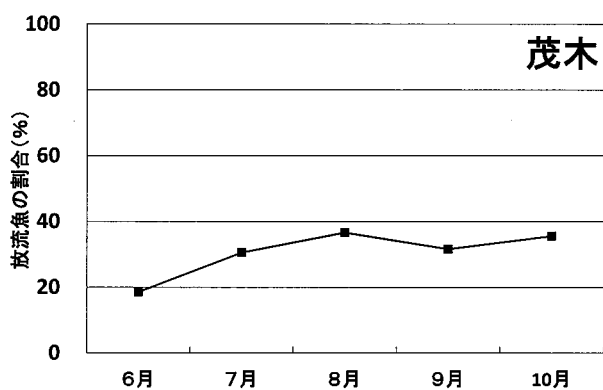
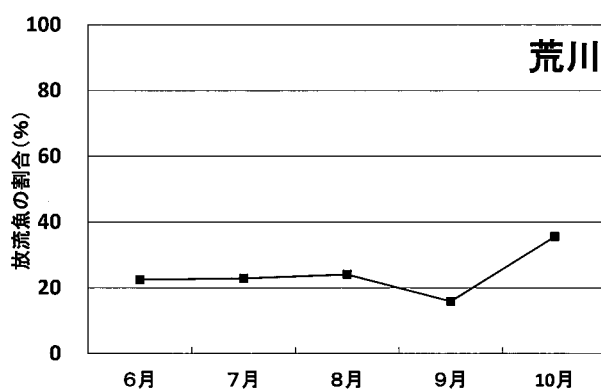
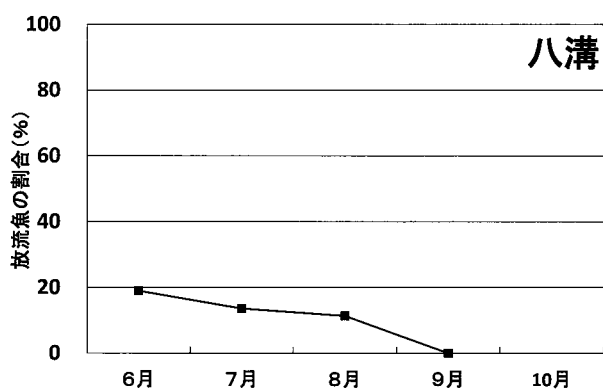
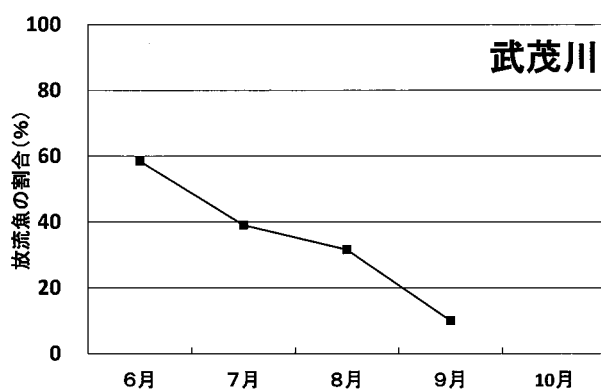
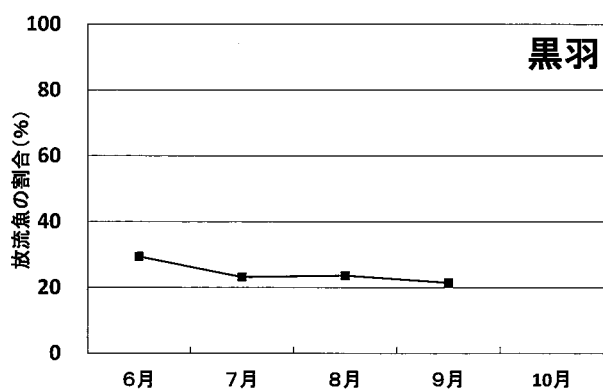


図4 月別・地区別の釣獲魚に占める放流魚の割合

引用文献

- 1) 吉田豊. 栃木県那珂川におけるアユの生産力. 環境調和型アユ増殖手法開発事業報告書 2007; 72-82.
(指導環境室)

調査試験報告要旨

は平年値よりもやや小さい傾向がみられました。
今年度は天然魚の遡上群数が多く、小型化したよう
です。釣獲魚に占める放流魚の割合は、6 月に
27%と平年の半分程度でしたが、10 月には平年値
よりも高く（36%）となりました。

那珂川アユ漁獲量調査 2ー釣獲魚体重および釣 獲魚に占める放流魚の割合ー（p28-29）

平成 26 年度の那珂川で釣獲されたアユの魚体
重および放流魚の占める割合を調査しました。年
間の平均体重は 51.0g で、平年の約 9 割でした。6
月上旬は平年と同等、6 月下旬から 8 月にかけて